

(単位：千円)

事業名	前年度予算額	要求額	審査額	摘要
<p>【教育局】</p> <p>新 重</p> <p>1 定時制高校生自立支援プログラム事業</p>		<p>7,739</p> <p>国庫 2,057 一財 5,682</p>	<p>要求どおり</p>	<p>ニート・フリーターにつながりかねない中途退学を防止するため、中退者や不登校生徒の多い定時制高校からモデル校2校を選び、生徒に自立する力を身に付けさせる</p> <p>1 生徒を学校へ導くための環境整備 617万4千円</p> <ul style="list-style-type: none">・スクールソーシャルワーカーの配置 2名・スクールカウンセラーの配置 2名 <p>2 外部人材を活用したサポートチームによる支援 156万5千円</p> <ul style="list-style-type: none">・地元企業やNPO等の協力による就労体験や接遇教育、ボランティア活動をモデル校2校において通年で実施

【審査の考え方】

定時制高校生の中途退学の防止を強力に推進するため、モデル校でのスクールソーシャルワーカー等を活用した支援やNPO等との連携による支援等について、要求額を措置した。

(単位：千円)

事業名	前年度予算額	要求額	審査額	摘要
<p>新 重</p> <p>2 小中一貫教育推進事業</p>		<p>8,453</p> <p>一財 8,453</p>	<p>要求どおり</p>	<p>児童生徒の学力向上や学校生活への適応促進のため、小中学校間の連続性を重視した小中一貫教育を推進し、県内市町村への普及を図る</p> <p>1 小中一貫教育推進モデル事業 800万円</p> <ul style="list-style-type: none">・目的 全県普及にあたっての利点や工夫、課題を集約するため、市町村にモデル事業を委託・対象 県内8地区・事業期間 平成24年度～平成25年度・事業内容 各地区は複数の取組メニューを選択・実施 <p>2 小中一貫教育推進会議 45万3千円</p> <ul style="list-style-type: none">・有識者、各モデル地区関係者など40名程度で構成・推進モデル事業の実施等に関する協議を年6回実施

【審査の考え方】

いわゆる「中一ギャップ」の解消や学力向上のため、小中一貫教育を推進するモデル事業等について、要求額を措置した。

(単位：千円)

事業名	前年度予算額	要求額	審査額	摘要
<p>新 重 3 未来を拓く「学び」 推進事業</p>		<p>3,585 一財 3,585</p>	<p>要求どおり</p>	<p>世界で活躍できる人材を育成するため、大学等と連携し、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高めるための授業方法を構築</p> <p>1 大学との連携 249万5千円 ・大学教授によるモデル授業を年5回実施(教員45人参加) 61万8千円 ・新たな授業方法に関する研究会の実施及び教材の作成 187万7千円</p> <p>2 企業との連携 109万円 ・企業が提供するICT(情報通信技術)研修を年3回実施 (教員45人受講) ・ICTの活用法をモデル授業に反映</p> <p>【事業の流れ】 ・モデル校15校を指定し、各校から教員3名を選出 ・教員45名による研究会を設置し、大学との連携等により、新たな授業方法に対応した教材を作成</p>

【審査の考え方】
生徒のコミュニケーション能力や問題解決能力などを育成するため、大学や企業との連携による新たな授業方法の研究等について、要求額を措置した。